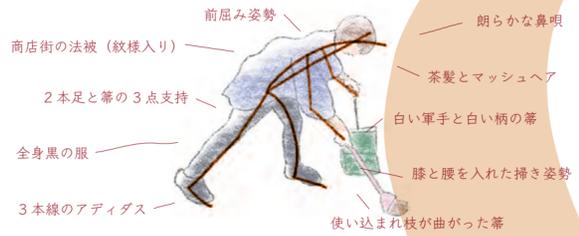


# 鼻唄六区

## 枕 鼻歌三丁、六区は浅草与太郎噺



一・ミュージシャンを目指す清掃員、与太郎。今日も箒片手に浅草六区を駆け回る。意気揚々と何を口ずさんでいるかって——  
勿論、ロックである。



「～ふふ～らら～、っと」

ふと目の前にぬんっと建物が見えた。入ってみれば中には一本のマイクスタンド。これは僕が歌えてることなのか。

二・一本の箒をマイクに持ち替えさっきまで口ずさんでいたロックを歌ってみると、食べ歩き中らしいカップルが近づいてきた。おもむろに人が集まってくる。

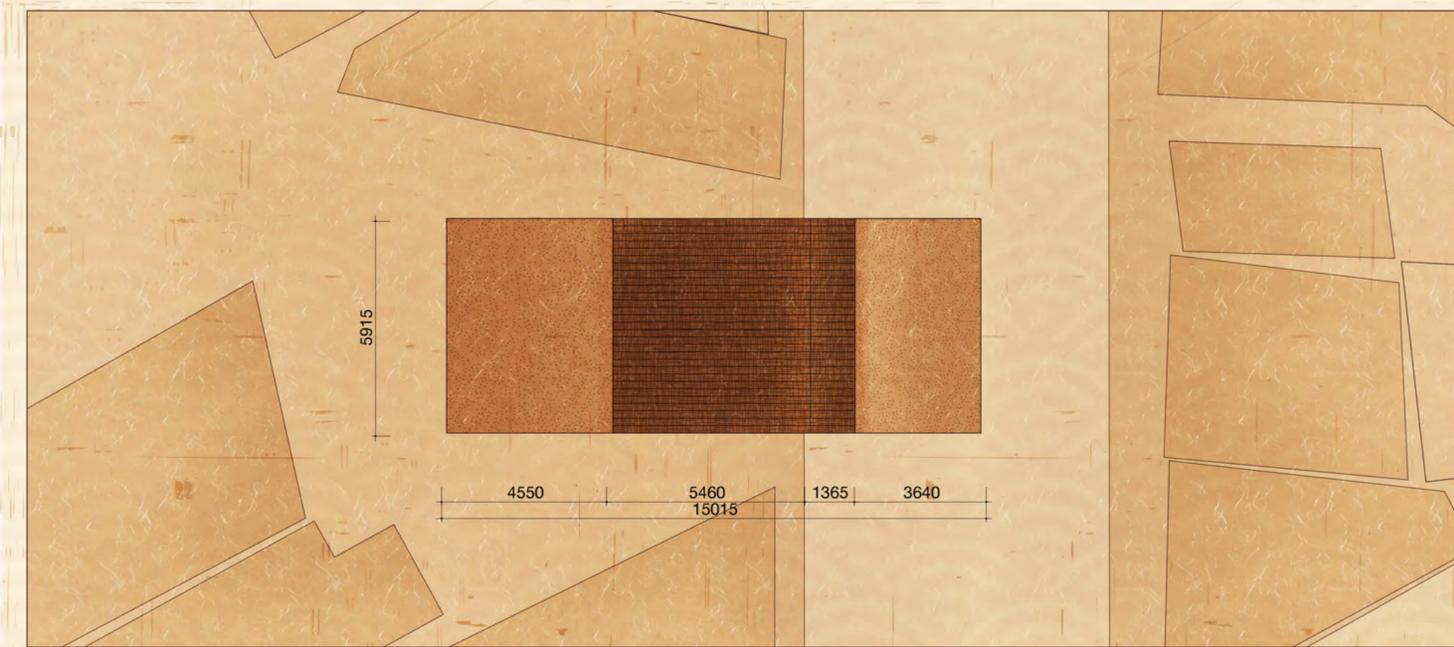


「えー、あっちでライブやってる？」

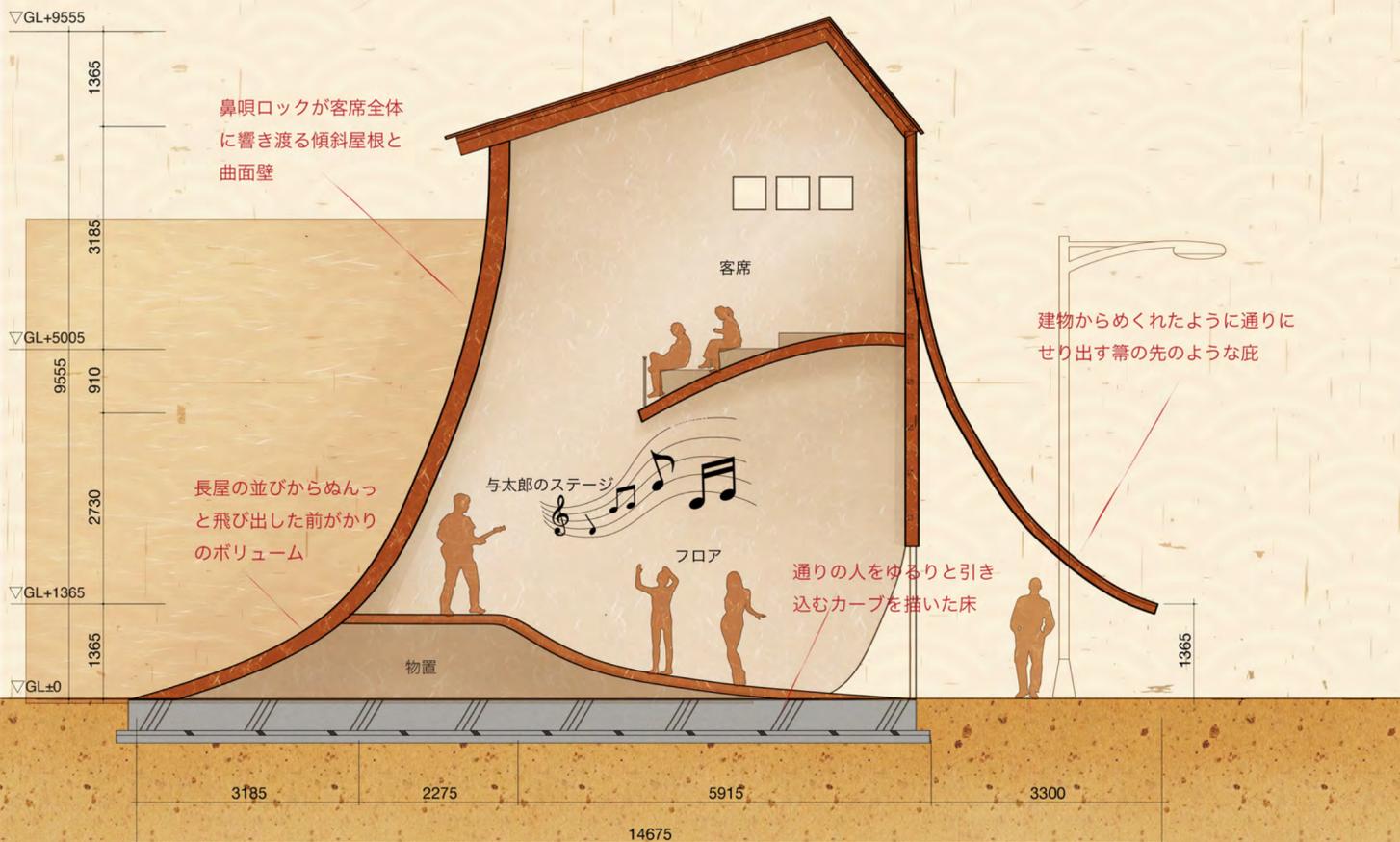
三・気づけば野次馬が野次馬を呼んで人で溢れていた。皆スイーツ片手に僕の歌を楽しんでいる。ロックスター誕生の日も近いか！  
ところが終演後、人だかりが引くと、観客が捨てていったゴミが散乱している。



しまった、今日は残業だ。



配置図 S=1/100 0 2 4 6m



断面図 S=1/50 0 1 2 3m

